

アトリエ 琉游舎 だより 39号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2018年11月7日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

釣瓶落とし

- 「秋の日は釣瓶落とし」とよく言いますが、釣瓶を実際に見たことがあったかどうか定かではありません。どこかの寺か旧家で見えたものか、テレビで見た記憶が残っているのか。
- 手動のポンプも最近見かけなくなって久しくなりました。あまり気づいていないかもしれませんが、停電が長引くと水をあげるポンプが止まっているのでいずれ断水します。防災上は一定地区に一つ、手動ポンプでくみ上げる井戸が必要かもしれません。
- 秋の夕日の話をします。晩秋は夕焼けがとてもきれいな季節です。コリーナは木があまりにも生い茂ってしまい、落日を見るスポットを見つけられませんが、例えば氏家から塩谷町に向かう大宮街道の田園地帯から眺める夕日、あるいは石関の農産物直売所の信号を右折し、山を越えて大槻を抜け荒川を渡ったあたりの夕日。澄んだ空気と急速に冷えてきた中で見る紅葉越しの夕焼けは、他ではなかなか見ることの出来ない景色です。
- この土地の夕日について書いた名文があります。「戸井みちお」詩集の中のエッセイの一文はこの土地の秋から冬にかけての夕日の真髄を表現しています。ご興味のある方は琉游舎にお越し下さい。詩集を差し上げます。一読した後に見るこの土地の夕日はまた一層格別なものとなることでしょう。

11月16日(金)から11月19日(月)

琉游舎はお休みします

読書会

11月13日・27日(火)
13時半から

詩話会

11月10日(土)
13時半から

映画会

毎週木曜日
13時半から

写経会

12月2日(日)
12月4日(火)
13時半から

11/8 木	13時半	ジェーン・エア (96分・字幕)	オーソン・ウエルズ、ジョーンフォンテイン主演。孤児院を出たジェーン・エアはある屋敷の家庭教師となるが次第にその主エドワードに心ひかれていく、、、波乱に満ちた女性の半生。
11/15 木	13時半	自由を我等に (83分・字幕)	ルネ・クレール監督。刑務所脱獄を図った囚人二人。一人は逃げ切り大富豪に、片割れが出所すると、、、工業化社会の風刺と友情を描いた傑作。
11/22 木	13時半	アンナ・カレニナ (110分・字幕)	トルストイ原作。旅の途中で知り合った若い伯爵との逢瀬を重ねるアンナ。家族と名誉を捨てて伯爵の下に走るが、、、愛に翻弄された美しき女の恋の結末。
11/29 木	13時半	キリマンジャロの雪	グレゴリー・ペック主演。原作はヘミングウェイ。死を前にした小説家が愛とロマンに満ちた半生を回顧する。小説の世界観を独自の手法で映画化。
12/6 木	13時半	嵐が丘 (104分・字幕)	エミリー・ブロンテ原作。兄妹のように育ったキャシーとヒースクリフ。2人は成長してもひかれ合うが、上流階級の生活にあこがれるキャシーは、、、ラブロマンス不朽の名作。
12/13 木	13時半	巴里の屋根の下 (90分)	ルネ・クレール監督。街角で出会ったアルベールとポーラ。ポーラはアパートの鍵をなくして彼のアパートに泊めてもらうが泥棒と間違えられ刑務所送りに、、、

あつという間に朝晩冷え込む季節になりました。つい1ヶ月ほど前は最低気温が15度前後だったのが今は5度前後、霜も降りそうな朝です。日が西に傾いた瞬間急激に気温が下がり大気も乾燥してきて、暖房と加湿器が欠かせない季節がこれから数ヶ月続くことでしょう。日中との寒暖差が大きくなり秋晴れの晴天が続く中、大根や白菜は日々大きくなってきましたがそれに反比例して大切な小松菜を丸坊主にしてくれたバッタや青虫の跳梁も終わりのようです。今度は鳥の攻撃が始まるでしょう。彼らの侵略から野菜たちを守らなければなりません、さてどうしたものか案山子が良いのか有効な対処法が思い浮かびません。

猪と思われる足跡を見つけました。足跡と言うよりは大地をガッガッと荒々しく蹴散らして行ったような跡が規則正しく30メートル程続いています。そして始点と終点には笹竹の群生の中にぽっかりと小さな穴が空き、その先は荒れた雑木林の崖へと繋がっています。冬支度のためのえさをあさりに、笹竹の入り口を通過して深夜山から人里に侵入し、そして笹竹の出口からまた住処に戻って行ったというところでしょうか。その足跡の周りにはドングリの実や栗のイガが散乱していました。山の食料が乏しくなって里に紛れ込んだか、意図的に人里に侵入したか、冬を乗り切るためにお腹を満腹にする必要があったのでしょうか。

「弟子の第一人者」とはどういう人かについて語ったお釈迦様の言葉が残されています。注1「弟子たちよ、これらの人達は私の弟子の中で第一の者たちである。智慧の第一はサーリプッタである。私の教えを多く聞く第一はアーナンダである」と次から次へ第一人者があげられていきます。「神通第一」「持律第一」「頭陀第一」などのように明らかに仏道修業を極めた第一人者のほかに「良い声の持ち主第一」「粗末な衣服第一」「寝床を設けること第一」「最初に食券を引く者の第一」など、あれと思うような第一人者も見られます。お釈迦様は一つのことには専念しそれを求め続ける者たちを「〇〇第一」と呼んで讃えています。おのおのができることから始め、他の人がまねしようとしても簡単には出来ないまでに専念し続けた者は、みなすべて安らぎの処（悟り）へと続く道を歩み続けている者たちだと言われているのです。自分のできることにおのおの専念すること、それが仏道への入口になるということです。

入口がいろいろあれば道もいろいろあることでしょう。出口ももちろんいろいろあるはずですから、その出口の先にある世界も千差万別のはずです。しかしお釈迦様の指し示す道に限っては出口の先にある世界は一つです。そこは「安らぎの処」。人それぞれ、その人に合った入口の扉を指し示し開けてあげることがお釈迦様の役目です。その人の能力や経験、性格などを見極め、この入口から仏の道に入りなさいと教え、その教えを私たちが信じることで初めて入口は開かれるのです。その後はその道をお釈迦様と伴に歩み精進を続ければ必ず娑婆世界の出口が見つかります。その出口の先の世界は、それぞれの入口から入って、お釈迦様と伴に歩み精進した人達に満ちあふれた「安らぎの処」。

以前「自灯明」「法灯明」という話しをしました注2。「法（教え）と自ら（信と行）を頼りに仏の道を歩みなさい」というお釈迦様の教えです。自らを頼りとする「信と行」は人それぞれ違います。性格も体格も能力も経験も違うわけですからあたりまえのことです。だからこそその人に合った入口をお釈迦様は示して下さるのです。歩む道も自らの足で歩まねばなりません。仲間たちは隣で同じような仏道修行に励んでいるように見えても、出口の先の同じ世界にたどり着くためには、それぞれが異なる道を歩んで行かなければならないのです。大きな円を私たちの住む娑婆世界とすると、その360度の円周上に無数の入口があり、そこから延びる道は中心の核に向かって伸びています。ただ直線的に向かっている道は皆無で、曲がりくねり戻り交差し紆余曲折しながら複雑な軌跡を描いているのですが、しかし必ず最後は中心の核に繋がっています。言うまでもなくその核は「安らぎの処」。お釈迦様と伴に歩んでいるという実感があればこそ、紆余曲折の道を自灯明と法灯明で歩いていくことができるのです。ですから、一見孤独でつらい道のりに見えるかもしれませんが、この道を歩むことは大きな喜びなのです。

出入り口のあるところは境界です。「内と外」「山と里」「ハレとケ」「極楽と地獄」「生と死」など異なる世界の境界には必ず出入り口があります。日本人は二つの異なる世界の往来は可能と考え「内」と「外」の往来の時は、無事を祈り体を清め汚れを祓い、その境界を往来してきました。私たちの日常もいろいろな境界を毎日出入りしているのだと思います。一番身近な境界は玄関です。そこを出れば外の世界。私は日常にある沢山の物理的、心理的境界を越えるとき、自由にストレスなく出入りできるようになりたいと思っています。それが「安らぎの処」そのものではないかと考えるからです。ですから私は、できる限りいろいろな境界を往来することを日々試みます。境界を往来し、試行錯誤を重ねることがお釈迦様の示す「核」へ繋がる道と信じているからです。

いとも簡単に猪が超えたあの山と里の境界は琉游舎の敷地から道路を挟んだ所です。そこで深夜、猪がえさを漁りに蠢いている姿を想像すると、ここはもはや猪には「内」で
琉游舎：戸井 出琉・恭子
私には「外」なのか、それとも両者の「入会地」なのか
お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152
分がなくなってきました。
矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850
それではまた次号でお会いしましょう（出琉）
Mail:toi101izuru@outlook.jp